

【授業計画・単元計画】




児童・生徒	小学校 5 年生 33名
実施日	令和 元 年 6 月 17 日
教科	国 語
※貸出資料	朝日新聞・産経新聞 5月20日(月)朝刊

※図書館から貸し出した学校セット名、もしくはレファレンス依頼のテーマ名

- 第一次
 1 二つの記事を見比べ、なぜ言葉が違うのかを考える
 2・3 「言葉と事実」を読み、内容を理解する
 第二次
 4 イソップ物語の事例について読み取る
 5 クラス対抗リレーでの事例について読み取る
 6 筆者の意見をまとめる
 7 筆者が思いを伝えるためにしている工夫について考える
 第三次
 8・9 新聞の構成について学び、新聞を書く
 10 互いの新聞を読み合う

単元名 言葉と事実の関係を考えよう(『言葉と事実』教育出版5年上)

本時のねらい: 同じ事柄についての記事でも言葉が違うのはなぜか、進んで考えようとする。(関・意・態) (1/10時間)

時間	授業者の行動や働きかけ	学習者の行動や反応	備考(板書・教具等)
5分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや思いを伝えたいときにはどうやって伝えるか。 ニュースを知る方法は？ 新聞を家で取っている人の数を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使う→方法は <ul style="list-style-type: none"> 手紙 ・Twitter ・メール 会話 ・電話 テレビ ・インターネット ・新聞 挙手→学級の4分の1程度 毎日読んでいる子供はほとんどいない 	
5分	<ul style="list-style-type: none"> 陸上男子100メートル走、ガトリンと桐生選手の対決を映像で見る。 	感想 <ul style="list-style-type: none"> 桐生選手、惜しかった。もう少しでガトリンを抜かせたと思う。 桐生選手も速かったけど、さすがはガトリンだと思った。 	インターネットによる映像
5分	<ul style="list-style-type: none"> みんながこのニュースを新聞に書くとしたらどんな見出しをつけるか。(見出しとは、新聞の内容を簡単にまとめたもので、題名のようなものと説明) 	<ul style="list-style-type: none"> 「桐生 惜しくも敗れる」 「ガトリン 快勝」 「さすが王者ガトリン」 「僅差で桐生敗れる」 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> 実際の新聞記事を紹介 資料①朝日新聞 「桐生0.01秒差 世界の壁」 資料②産経新聞 「桐生 充実10秒01」 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の感想 <ul style="list-style-type: none"> →①・悔しい気持ちが伝わってくる ・ガトリンはやっぱり速い、追い越せないという悔しさがわかる。 ②・努力の成果が出た喜びが伝わる。 ・桐生選手の満足した気持ちが伝わる。 ・2位だったけれど、やりきったという、すがすがしい気持ちが伝わる。 	新聞記事 ①朝日新聞 ②産経新聞
20分	<ul style="list-style-type: none"> 同じ事柄についての記事なのに、使われている言葉が違うのはなぜかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者によって注目しているところが違うから。 記者によって感じ方や考え方が違うから。 心に残った場面が違うから。 ①は、タイムの差に注目し、それが世界との力の差だということを伝えたいのだと思う。 ②は、2位という順位より、オリンピックの基準値を超えるタイムが出たということを凄いことだと伝えたいのだと思う。 ②は桐生選手の今までの頑張りを褒め、その成果だと称えているのだと思う。 伝えたい言葉によって、新聞に使う写真も異なってくる。 	
<p>新聞記者一人一人が伝えたいことや心に残ったことが異なるから、言葉や写真、内容が違う。また、新聞記事の伝え方や言葉、写真によって、読み手の印象も異なってくる。</p>			